

第3節 奨励品種の変遷と作付動向

1. 水稻

(1)うるち

当場開設後大正中期にかけては、主として在来種やそれからの純系分離によって選出された品種で占められ、神力と権八の全盛時代であった。権八は本県で古くから栽培された早生種であり、作柄が安定している点とワラが細くおぼろがあり、ワラ加工用としても適したため積極的に栽培された。その後権八の純系分離により王子権八、坊主権八、権八82号等の優秀品種を選抜して一般に普及した。神力についても、岡山神力、改良神力、鹿児島神力、伊予神力等が出現し、その内伊予神力はその後永く本県に栽培された。

大正中期から昭和10年頃にかけては、純系淘汰と人工交配による品種改良が進み、その結果育成された代表的品種として徳島晩稲1号、徳島旭7号、徳島神力36号、徳島虎丸5号などがあり、これらはいずれも本県の気候風土に適応して広く栽培された。特に徳島晩稲1号は昭和20年には作付面積の第1位を占めるに至った。昭和10～20年頃には愛知旭、亀治2号、みのる、剣、農林8号、農林18号などの新交配種が奨励品種に採用され、その内愛知旭、農林8号、農林18号は昭和30年過ぎまで良質多収品種として作付面積の上位を占めた。

戦後は、食糧増産の時代が続き、農林29号、ヤマビコ、サチワタリ、金南風、農林37号、ミホニシキ、アケボノなどが主要品種であった。昭和40～45年頃には、短稈、多肥、多収性品種としてナギホ、トヨサト、ヤマタなどの出現をみたが、これらはいずれも品質が十分でなく、米過剰時代を迎えた昭和45年以降はほとんど姿を消した。また、この頃から農作業の機械化が急速に進み、田植機が普及し始めたため、従来の品種は長稈で倒伏に弱かったり、良質米の生産が叫ばれるようになった結果、次第に栽培面積が減少して、現在の奨励品種に入れ替った。

昭和30年頃からは早期栽培が普及し始めたために極早生用の品種が導入され、初期には農林17号、トワダ、ササングレなどが奨励品種に採用されたが、現在では、これらの品種は姿を消し昭和37年に採用された越路早生とコシヒカリが倒伏に弱い欠点を持ちながらも良質米として栽培されている。

近年品種の早生化が進むと共に、機械化適応性の高い短稈種で良質な品種へと変わってきた。現在は奨励品種普及率が88％程度に高まり、品種別では早生種の日本晴が作付面積の大半を占めている。

(2)もち

明治末期から大正中期にかけては、天子籾、井本籾、一本籾などが主として栽培されていたが、大正中期からは高尾籾が栽培されるようになった。その後品種改良により高尾籾から徳島高尾籾38号を選出し、大正12年に県の奨励品種に採用されて広く栽培されるようになった。この品種は、餅質が極めて良かったため、昭和37年頃まで籾種の代表的品種として栽培された。しかし、この頃より全体に早生品種の要望が高まり、昭和29年にコトブキモチ、同33年に祝籾が奨励品種に採用され、これに代って徳島高尾籾38号は同39年に奨励品種から廃止されたため作付面積は減少した。その後はコトブキモチと祝籾が主として栽培されたが、いずれも機械化適応性が劣るため、田植機が普及し始めた昭和45年頃からこれに代わる品種の要望が強くなり、昭和50年にクレナイモチを奨励品種に採用し、現在はこれが主要品種となっている。

早期栽培用のもち品種としては、県の奨励品種ではないが、昭和30年頃から信濃籾3号が主として栽培され、現在においてもかなりの栽培が行われている。

改良により高尾籾から徳島高尾籾38号を選出し、大正12年に県の奨励品種に採用されて広く栽培されるようになった。この品種は、餅質が極めて良かったため、昭和37年頃まで稲種の代表的品種として栽培され続けた。しかし、この頃より全体に早生品種の要望が高まり、昭和29年にコトブキモチ、同33年に祝 籾が奨励品種に採用され、これに代って徳島高尾籾38号は同39年に奨励品種から廃止されたので作付面積は減少した。その後はコトブキモチと祝籾が主として栽培されたが、いずれも機械化適応性が劣るため、田植機が普及し始めた昭和45年頃からこれに代わる品種の要望が強くなり、昭和50年にクレナイモチを奨励品種に採用し、現在はこれが主要品種となっている。					
早期栽培用のもち品種としては、県の奨励品種ではないが、昭和30年頃から信濃籾3号が主として栽培され、現在においてももかぎりの栽培が行われている。					
第6表 水稻奨励品種の改廃状況					
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考	
石 白	明治 37 年に よじとされて いた品種			原産地	富山県
権 八				〃	徳島県
丹波出雲				〃	京都府
闇 張				〃	三重県

第7表 陸稲奨励品種の改廃状況					
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考	
陸稲農林 5 号	昭和 16	昭和 48	32		
〃 籾 6 号	〃 16	〃 35	19		
〃 籾 1 号	〃 23	〃 48	25		
〃 22 号	〃 35	〃 48	13	準奨励品種	
〃 籾 20 号	〃 35	〃 48	13	〃	

2. 麦類

(1)裸麦

明治末期から大正中期にかけては在来種の中から多収性のものを選出して奨励した。九州、白珍好、香川籾、養父、米稈などがこの時代の主要品種として栽培された。大正中期から昭和10年頃には、純系淘汰や人工交配による品種改良が行われ、その結果選抜された代表的品種として徳島珍好83号、徳島珍好1号、徳島白麦8号、徳島香川15号があり、その内徳島白麦8号は、良質で多肥増収性品種として、また、徳島香川15号は、少肥栽培用適品種として昭和40年代まで広く県下に栽培された。昭和13年には早生裸が奨励品種に採用され、平坦部のたばこ前作として栽培された。戦後昭和30年頃までは食糧事情が悪く、増収品種の要望が高かった時代で、赤神力、セトハダカ、ハヤウレハダカなどが奨励品種に加えられ栽培面積も多かった。しかし、昭和30年代後半からは食糧事情が好転したため栽培増産面積が激減して現在に至っている。昭和58年現在奨励品種はユウナギハダカとピワイロハダカの2品種であるが、ピワイロハダカは伸び悩んでいる。

第8表 裸麦奨励品種の改廃状況					
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考	
九 州 械	明治 42	大正 11	13	原種園が設置されていた品種	
白 珍 好	〃 43	〃 10	11		
香 川 籾	〃 43	〃 11	12	原種は約 63 a	
養 父	大正 6	〃 10	4		
米 籾	〃 6	〃 9	3		
徳島珍 好 83 号	〃 10	昭和 33	37	大正 11 年麦原種圃を 1 ha とする。	
〃 九州 110 号	〃 10	〃 2	6		
〃 香川籾 73 号	〃 10	〃 6	10		
養 父 45 号	〃 10	〃 2	6		
〃 米 籾	〃 10	大正 14	4		
〃 九州 13 号	〃 13	昭和 14	14		
〃 珍好 1 号	〃 14	〃 30	30		
〃 米稈 1 号	〃 14	〃 14	14		
〃 白麦 8 号	〃 15	〃 48	47		
〃 小ピン 6 号	〃 15	〃 6	5		
〃 香川 5 号	昭和 6	〃 39	33		
早 生 籾	〃 13	〃 31	18		
赤 神 力	〃 23	〃 36	13		
セ ト ハ ダ カ	〃 28	〃 36	8		
ハヤウレハダカ	〃 30	〃 50	20		
ハ シ リ ハ ダ カ	〃 31	〃 36	5		
コウナギハダカ	〃 33		継 続		
シラヒメハダカ	〃 39	昭和 48	9		
ピワイロハダカ	〃 54		継 続		

(2)小麦

明治末期から大正10年頃までは、宝満、筑摩の原種園が設けられ種子が配布されたが、裸麦に比べて栽培面積は少く、明治44年には約4、370町で裸麦の7分の1であった。その後純系淘汰により徳島筑摩29号、徳島宝満3号が選抜され昭和10～15年頃まで主要品種として栽培された。昭和7年には徳島筑摩29号を廃止し、江島神力を奨励品種に採用したが、この品種は大粒良質であり県下一円に普及した。昭和7年以降は、小麦増産計画が立てられると共に奨励品種決定試験が開始され、昭和14年には小麦農林43号、昭和19年には小麦農林52号、小麦農林65号などの農林省育成品種が奨励品種に採用されていた。

第9表 小麦奨励品種の改廃状況					
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考	
宝 満	明治 43	大正 9	10	原種園が設置されていた品種	
筑 摩	〃 43	〃 9	10		
徳 島 宝 満	大正 10	〃 15	5		
徳島筑摩 29 号	〃 11	昭和 7	10		
中相州畿内 5 号	〃 13	〃 19	20		
徳島宝満 3 号	〃 15	〃 14	13		
江 島 神 力	昭和 7	〃 33	26	昭和 7 年奨励品種決定試験始まる。	
農 林 43 号	〃 14	〃 36	22		
〃 52 号	〃 19	〃 42	23		
〃 65 号	〃 19	〃 42	23		
シラサギコムギ	〃 36		継 続		
ウシオコムギ	〃 42	昭和 48	6		

コトブキモナ	29	昭和 50	21	昭和 29 年原種決定試験は 1/2 国産となる。
アケボノ	29	57	28	
ミホニシキ	30	42	12	
サホロタリ	22		666 666	

第12表 サツマイモ奨励品種の改廃状況					
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考	
農 林 17 号	〃 33	昭和 37	4	準奨励品種、早期用	
祝 幡	〃 33	〃 48	15	〃	
豊 秋 20 号	〃 33	〃 48	15	準奨励品種	

第13表 ジャガイモ奨励品種の改廃状況					
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考	
アリーローズ	昭和 19	昭和 33	14		
紅 丸	〃 19	〃 33	14		
男 爵	〃 34 年以前			昭和 48 年以降は自然消滅した。	
農 林 1 号	〃 34 年				
シ マ バ ラ	〃 36				

第14表 ナタネ奨励品種の改廃状況				
品 種 名	採用年	廃止年	奨 励 在年数	備 考
サ シ ン グ レ	〃 35	〃 39	4	昭和 48 年以降は自然消滅した。
セ ト ホ ナ ミ	〃 37	〃 49	12	
越 後 早 生	〃 37		継 続	

コシヒカリ	” 37		”
サギホ	” 39	昭和 44	5
トヨサト	” 39	” 45	6